第１号議案

令和４年度事業報告

会長	渡邊　博昭

令和４年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどの会議や研修会はリモートで行ったが、令和４年12月18日（日）の会期で朱鷺メッセにおきまして第95回新潟県臨床検査学会をリアル開催し、大過なく盛会のうちに終了できた。これもひとえに講師、座長の皆様、関係各位のお力添えのおかげと実務委員一同、感謝申し上げます。

令和４年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

令和４年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

①　定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。

②　表彰関係は例年度通りの事業を行った。

学術部

①　精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。

②　検査研究部門活動は、日臨技助成金に対して20研修会の申請を行った。

広報部

①　会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

総務部	副会長　畔上　公子

1．通常総会の開催

令和４年５月29日（日）新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、令和３年度通常総会はZoomを用いたWEB形式で実施された。令和３年度事業報告、同決算報告、監査報告に関して、議決書ならびにWEB出席者において賛成多数で承認された。また、令和４年度事業計画（案）、収支予算（案）の確認もされた。

2．会務の執行体制

1）職務分担

令和４年度は役員任期の後期にあたったが、前年度同様に学術部、広報部、総務部の３部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2）事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状の中、日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担っていただいていた阿部事務員が退職された。事務局作業は細分化され、各担当を中心にJAMTIS運用による会員情報登録および変更作業、諸会議の準備、会計を処理し、組織運営を果たしている。

3．諸会議の開催

1）理事会　第１回　令和４年４月10日（Zoomを用いたオンライン会議）
第２回　令和４年５月14日（Zoomを用いたオンライン会議）
第３回　令和４年７月16日（Zoomを用いたオンライン会議）
第４回　令和４年９月17日（Zoomを用いたオンライン会議）
第５回　令和４年12月４日（現地開催＋Zoomを用いたオンライン会議）
第６回　令和５年１月28日（Zoomを用いたオンライン会議）

2）常任理事会

定例常任理事会は、令和４年度は２回の開催となった。

3）三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行ない、特に三役会議は開催しなかった。

4）各種委員会の開催

⑴　会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第323号から第326号の編集業務のため、メール等を利用して実施した。

⑵　ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

⑶　検査研究部門委員会議

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため１回開催した。

⑷　生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

⑸　精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため５回開催した。

⑹　表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、ZoomによるWEB審議を１回開催した。

4．組織対策

1）入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は69名。

本会の正会員総数は1,378名。（令和５年３月現在）

技師連盟入会者数は44名136口。

社会的地位向上および今後の業務拡大の為にも、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

２）各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

３）会員施設との連携強化

会員施設との連携を強化するため、施設運営管理者協議会を設置し、令和４年８月21日に令和４年度施設運営管理者協議会を開催した。現在（令和５年３月）の登録施設数は55施設である。今回の協議会では、タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の新潟県での開催状況ならびに臨床検査技師を取り巻く社会情勢、タスク・シフト／シェアをうけて臨床検査技師の今後の展望についての情報を共有した。

５．地域保健医療活動および公益事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、多くの公益活動は中止、不参加となったが、一時感染拡大が終息期であった令和４年11月20日に、全国「検査と健康展」2022 in NIIGATA を開催した。毎年行っている体験型のイベントは行わず、十分な感染対策を講じながら、臨床検査技師の仕事内容についてのパネル展を実施した。

６．求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

７．災害関係

災害支援活動に関するマニュアルを整備中である。

８．表彰関係（敬称略）

１）第40回篠川至賞

特別功労部門　吉　原　正　弘（立川綜合病院）

学術賞部門　樋　口　元　弥（新潟県立燕労災病院）

２）令和４年度功労者表彰

⑴　永年会員功労者表彰　該当者27名

⑵　特別功労者表彰　該当者なし

３）名　誉　会　員　該当者なし

４）令和３年度生涯教育履修表彰

奨　励　賞	畔　上　公　子	（新潟県立がんセンター新潟病院）	320点
	高　橋　政　江	（新潟県立妙高病院）	290点
	柳　沢　悦　子	（新潟県立吉田病院）	258点
新　人　賞	渡　辺　　翔	（南魚沼市民病院）	190点

９．日臨技からの政策渉外関連調査

日臨技より「政策渉外関連事項等における現状把握のための調査協力施設の選定」が調査の精度を上げるために、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、JA 新潟厚生連豊栄病院、湯沢町保険医療センターの４施設が登録された。

学術部　　副会長　桑原喜久男

令和４年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に活動をした。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、対面での研修会や実技研修会が開催され、コロナ以前の活動に戻り始めている。Web 研修会での参加者数が伸びたが、参加費を徴収しない研修会開催方法は受益者負担の観点から再考が必要と考える。研修会の開催に際しては日臨技の生涯教育推進研修会助成金の申請を行った。第95回新潟県臨床検査学会は94回に引き続き、現地で開催する事ができた。

精度管理事業は新潟県より委託を受けた事業であり、例年通り、日臨技のシステムを利用して行う事ができた。精度管理報告会は令和３年度同様に Web での開催となった。

１．学会　　桑原喜久男

令和４年12月18日（日）に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、田中実行委員長のもと、第95回新潟県臨床検査学会を開催した。第94回に続き対面での開催として、開催中は３密を避け、感染管理を行い、運営は大過なく行う事が出来た。参加者数231名（一般会員：148名、賛助会員：28名、新潟県会員：１名・学生：52名、非会員：１名）の参加を頂き、一般演題26演題、教育講演４講演、特別講演１講演を開催した。また、94回に引き続き学会内で各種表彰を行った。ランチョンセミナー、機器展示は見送った。

２．検査研究部門　　中村　岳史

令和４年度検査研究部門は、９部門６分野（生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門の９部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の３分野、臨床検査総合部門は、管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野の３分野）で組織構成され、部門構成員は最大各部門６名、各分野４名、活動費は各部門12万円、各分野８万円で運営された。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計14回であった（昨年度13回、一昨年度８回）。各部門分野別では、生物化学分析部門０回、臨床一般部門１回、臨床血液部門０回、臨床微生物部門２回、輸血細胞治療部門１回、病理細胞部門１回、染色体・遺伝子部門１回、臨床生理部門（部門として１回、神経生理分野１回、循環生理・呼吸生理分野１回、超音波分野２回）、臨床検査総合部門（管理運営分野１回、公衆衛生・生殖医療分野１回、救急検査分野１回）であった。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、Zoom を用いたオンライン研修会での開催が主体であったが、現地開催や実技研修といった開催形式も企画された。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性の高い内容のものまで会員のニーズを鑑み、企画運営されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。また、今年度は臨床生理部門において実技研修会が開催された。実技研修は会員からのニーズが高く、技術面の向上に寄与する重要な研修会の一つであり、引き続き実技研修の開催について検討していくことが必要である。

次年度は、オンライン研修会に並行し新型コロナウイルス感染対策を十分に行ったうえで、会員の声を反映した現地開催や実技研修会の開催など、知識や技術の向上のため会員にとって有益な学術活動を運営していく。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	研修会開催なし				
臨床一般	令和５年 １月14日（土）	専門20	54名	０名	【令和４年度臨床一般部門研修会（Web 開催）】 １．「検査室で実施できる寄生虫検査」　北陸大学　医療保健学部　松村　隆弘 ２．「尿沈渣検査「尿細管上皮細胞」を考える－多彩な形態で出現する尿細管上皮細胞の鑑別方法と意義－」　平内町国民健康保険　平内中央病院　坂牛　省二 Zoom による Web 開催
臨床血液	研修会開催なし				
臨床微生物	令和４年 10月29日（土）	専門20	33名	０名	【令和４年度新臨技臨床微生物部門研修会】 １．「新型コロナウイルスを機に導入された遺伝子検査機器の活用について～全自動 PCR 検査装置を迅速な感染対策に活用する～」 ベックマン・コールター株式会社　マイクロバイオロジー統括部　営業推進部　堂浦　照也 ２．「臨床微生物検査の最新トピックス2022」　東京医科大学　微生物学分野　大楠　清文 ３．「学会発表＆論文執筆のポイント」　東京医科大学　微生物学分野　大楠　清文 現地開催
	令和５年 ３月５日（日）	専門20	34名	０名	【令和４年度第２回新臨技臨床微生物部門研修会】 １．「全自動血液培養装置 VIRTUO によるフルオートメーション化とデータマネジメント」 ビオメリュー・ジャパン株式会社　臨床学術部　北浦　芳之 ２．「抗酸菌検査の基礎」　国立病院機構西新潟中央病院　臨床検査科　渡辺　靖 ３．「図解　グラム染色　基本から実践まで」 東邦大学医療センター大森病院　臨床検査部　佐々木雅一 現地開催
輸血・細胞治療	令和４年 10月８日（土）	専門20	92名 （入会申請中および賛助会員含む）	０名	【令和４年度輸血細胞治療部門研修会（Web 開催）】 １．「輸血検査の基礎－初心者・初級者の方々に－」　バイオラッド株式会社 ２．「輸血のための検査マニュアルについてのトラブルシューティング」 一般社団法人　日本輸血・細胞治療学会　東邦大学医療センター大森病院　輸血部　日髙　陽子 Zoom による Web 開催
病理細胞	令和４年 11月20日（日）	専門20	42名 （賛助会員含む）	４名	【令和４年度新潟県臨床検査技師会　病理細胞部門研修会（Web 開催）】 １．「各施設における迅速組織診・細胞診の紹介」　長岡中央綜合病院　病理部　大橋　珠紀 魚沼基幹病院　臨床検査科　病理　大野　仁子 新潟大学医歯学総合病院　病理部　川口裕貴恵 ２．「迅速組織と迅速細胞診の技術」　順天堂大学医学部人体病理態学講座　青木　裕志 ３．「臨床医から見た迅速の意義」 新潟大学大学院医歯学総合研究科　家族性・遺伝性腫瘍学講座　西野　幸治 ４．「病理医から見た迅速の意義」 四国がんセンター　病理科　がん予防疫学研究部　寺本　典弘 Zoom による Web 開催
染色体・遺伝子	令和４年 11月５日（土）	専門20	32名	０名	【令和４年度染色体・遺伝子部門研修会（Web 開催）】 １．「感染症の迅速検査法のご紹介」　東洋紡株式会社　診断システム事業部　曽家　義博 ２．「リアルタイム PCR による遺伝子解析～基礎原理と解析注意点、コンタミネーションを回避する分注のコツ～」 サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズジャパン株式会社　テクニカルサポート　白神　博 Zoom による Web 開催
臨床生理	令和４年 ７月10日（日）	専門20	149名 （入会申請中含む）	０名	【臨床生理部門研修会　生理検査基礎セミナー2022～心電図・呼吸機能編～】 １．「心電図検査の正しい進め方～基礎を習得しよう！～」 社会医療法人河北医療財団　河北総合病院　臨床検査科　高野小百合 ２．「喘息・COPD の呼吸機能検査結果の解釈」 北海道大学病院　生理機能検査室　山本　雅史 Zoom による Web 開催
	神経生理分野 令和５年 ２月18日（土）	専門20	84名	７名 （学生含む）	【臨床生理部門神経生理分野研修会　神経生理検査セミナー2023】 １．「神経伝導検査について学ぼう～検査に役立つ基礎知識～」 太田西ノ内病院　生理検査科　相原理恵子 ２．「検査の基本とコツ～ABR と ENoG について～」 手稲渓仁会病院　臨床検査部　小川　優司 Zoom による Web 開催
	循環・呼吸生理分野 令和４年 12月３日（土）	専門20	33名	０名	【臨床生理部門循環呼吸生理分野研修会　心電図・呼吸機能検査セミナー2022】 １．「心臓電気生理検査　入門編」　新潟大学　医学部保健学科　齋藤　修 ２．「「呼吸機能ガイドライン変更内容～測定時のポイントを交えて」 株式会社フクダ産業　肺機能事業部　上野　耕平 ３．「ペースメーカ心電図判読と植込みデバイス最新事情」 三菱京都病院　診療技術部　山田　宣幸 Zoom による Web 開催
	超音波分野 令和４年 ９月17日（土）	専門20	88名	０名	【臨床生理部門研修会　超音波初級者セミナー2022～夏の全身動脈祭り～】 １．「これから始める頸動脈エコー」 埼玉医科大学国際医療センター　中央検査部　山本　哲也 ２．「やってみよう！腎動脈・腹部血管エコー－描出のポイントと評価法－」 新潟大学医歯学総合病院　検査部　小林　清子 ３．「やればみんなできる！－下肢動脈エコーの評価と観察のコツ－」 東邦大学医療センター大森病院　臨床生理機能検査部　八鍬　恒芳 Zoom による Web 開催

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
臨床生理	超音波分野 令和４年 10月15日（土）	専門20	34名	０名	【臨床生理部門超音波分野研修会　超音波実技セミナー2022】 １.「心臓超音波：基本断面の走査法、装置の設定、心機能計測法など」 立川綜合病院　江口　香澄 JA 新潟厚生連新潟医療センター　堤　恭子 ２.「腹部超音波：初級者を対象とした見落としのない臓器の描出方法など」 労働衛生医学協会岩室成人病検診センター　若林　佳美 長岡赤十字病院　小幡ちはる ３.「頸動脈超音波：「超音波による頸動脈病変の標準的評価法2017」に沿った計測法など」 JA 新潟厚生連長岡中央総合病院　大矢　佳奈 現地開催
臨床検査総合	管理運営分野 令和５年 １月14日（土）	専門20	34名 （賛助会員含む）	０名	【令和４年度臨床検査総合部門管理運営分野研修会】 １.「臨地実習指導者講習会～制度の立て付けと実際の話～」 済生会三条病院　桑原喜久男 ２.「精度管理の基礎と ISO に基づいた危機管理手順について」 シスメックス株式会社　北関東支店　学術サポート課　中島　正雄 Zoom による Web 開催
	救急検査分野 令和４年 ７月16日（土）	専門20	147名 （賛助会員含む）	３名 （学生含む）	【令和４年度新潟県臨床検査技師会臨床検査総合部門救急検査分野研修会　救急検査セミナー2022】 １.「検体検査のビットホール～そのデータ、本当に正しい？？～」 新潟県立妙高病院　高橋　政江 ２.「こんなときどうする？日当直時の輸血」 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院　柴田真由美 ３.「苦手克服！血液ガス分析 Part.2」 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社　濱田　宏輝 Zoom による Web 開催
	公衆衛生・生殖分野 令和５年 １月14日（土）	専門20	18名	８名	【令和４年度臨床検査総合部門（公衆衛生・生殖医療分野）研修会】 １.「リアルタイム PCR セミナー　基礎原理とコンタミネーション回避を中心としたトラブルシューティング」 サーモフィッシャーサイエンティフィック　ライフサイエンスソリューションズ ライフテクノロジーズジャパン株式会社　今泉隆次郎 ２.「ダニ媒介性細菌感染症について」　国立感染症研究所　細菌第一部　川端　寛樹 ３.「ボレリア感染症（ライム病、回帰熱）について」 国立感染症研究所　細菌第一部　佐藤　梢 現地開催

３．精度管理事業　　田端　　篤

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である令和４年度（第43回）新潟県臨床検査精度管理調査を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。本事業を担当する精度管理委員会はコロナ禍であることから、Web 会議など中心に、全体会議を計５回開催しメールなどを用いて実施計画及び配送準備、データ集計、解析を実施した。微生物検査は技師会が担当する一般菌１菌種の薬剤感受性試験と、新潟県保健環境科学研究所が担当する２菌種の同定を合わせて実施した。調査対象として施設数は、全体で179施設、今年度の参加施設は165施設（92.1％）であった。

精度管理調査事業の内容（測定項目）は以下のとおりである。

１）臨床化学検査　　※生化学試料：冷凍試料、HbA1c 試料：冷蔵試料

評価対象項目（21項目）

グルコース（Glu）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）、クロール（Cl）、カルシウム（Ca）、尿酸（UA）、尿素窒素（UN）、クレアチニン（Cre）、総コレステロール（TC）、中性脂肪（TG）、HDL- コレステロール（HDLC）、LDL- コレステロール（LDLC）、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）、アルカリフォスファターゼ（ALP）、乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）、アミラーゼ（AMY）、クレアチンキナーゼ（CK）、γ- グルタミルトランスフェラーゼ（GGT）、コリンエステラーゼ（ChE）、ヘモグロビン A1c（HbA1c）

集計報告のみの項目（７項目）

総ビリルビン（TB）、無機リン（IP）、鉄（Fe）、マグネシウム（Mg）、総蛋白（TP）、アルブミン（Alb）、C 反応性蛋白（CRP）

２）血液検査　　※血液試料：冷蔵試料

CBC６項目（ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積）

3）微生物検査（同定）

試料Ａ、試料Ｂにはそれぞれ１種類の細菌が含まれているので発育した菌について結果を報告。

4）微生物検査（薬剤感受性試験）

試料Ｃ（*Pseudomonas aeruginosa* NCTC 13921）に含まれる病原細菌のイミペネム（以下「IPM」とする。）、アミカシン（以下「AMK」とする。）、レボフロキサシン（以下「LVFX」とする。）の３薬剤について薬剤感受性試験を実施した。※薬剤感受性の判定はClinical and Laboratory Standards Institute（CLSI）M100-S26の基準を用いた。

5）一般検査フォトサーベイ

設問１～12を評価対象設問とし、参考調査として尿沈渣成分１問、髄液細胞数算定１問、寄生虫検査４問を実施した。

今年度の調査より本報告書への調査結果報告の掲載について２点ほど変更を行った。まずは、「測定方法別バイアスの許容限界を満たさない施設」、「項目別・方法別統計表」の掲載を取りやめて、その代案として、初めての試みとして（一社）日本臨床衛生検査技師会の精度管理用システム（JAMTQC）にアップロードし、各施設にてダウンロード可能となるように変更した。また、併せて、測定試薬ごとに集計表もアップロードした。次に、実施全項目に対して調査結果解析を行い、その内容を掲載していたが、評価対象項目のみ結果解析を行い、その内容を掲載した。この理由としては、各項目において報告値が収束しており、解析結果が近年同様な内容となっていた為である。評価対象以外については集計統計表のみとした。

新潟県臨床検査精度管理調査における目標値の設定は従来から日本臨床化学会（JSCC）の勧告法に準じた方法、および勧告法の伝達された認証標準血清を用いて実施してきた。JSCC勧告法は設定されて以来、多くの精度管理調査の目標値設定方法として、また市販試薬の対照測定法として用いられている。特定健診においても前述の標準物質を用いて標準化が行われていることが前提となっている。昨年度と同様に酵素項目、濃度項目の目標値設定については、基幹施設およびISO取得施設に別途測定依頼したデータを用い設定した。日本臨床化学会より、アルカリフォスファターゼ（ALP）、乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）の測定方法をJSCC標準化対応法よりIFCC標準化対応法に令和２年度中に変更するように勧告されていた。今年度の調査では、ALP、LDともに112施設（97％）がIFCC標準化対応法で回答があり、概ね変更が完了していた。ただ、３施設（３％）がJSCC法での回答となっており、うち１施設が誤記入と思われる。昨年度中の変更が勧告されていることから、JSCC法回答施設については評価対象外とした。HDLコレステロール、LDLコレステロールについては、今年度も測定方法（測定試薬）により値が異なるため、できるだけ多くの測定方法（測定試薬）に目標値を設定したいと考えメーカー報告値を目標値とした。ただ、LDLコレステロールにおいて、デンカ試薬にて測定機種により測定値に差がみられたため目標値を別設定とした。また、LDLコレステロールの試料12（市販管理血清）において、昨年度と同様に積水メーカー報告値と施設報告平均値に差がみられたため、施設報告値平均値を目標値として設定した。クロール（Cl）についても電極の違いにより測定値に差がみられたため別設定とした。HbA1cは本年度も日本赤十字社全血検体を用いたが、測定方法（測定試薬）により反応性が異なるためメーカー報告値を用いて測定方法毎に目標値を設定した。ドライケミストリー法はマトリックスの影響を受けやすいことから、メーカー報告値を目標値とした。

本年度も試料11にはヒトプール血清を使用しており、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）、クレアチニン（Cre）において低濃度となったため暫定的に評価基準を目標値±10％とした。乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）も暫定的に±５％とした。また、ナトリウム（Na）及びクロール（Cl）は日本臨床衛生検査技師会精度管理調査と同様に評価Ｂ以下の基準を変更した。カリウム（K）はBAが1.9％であるが、

規格の運用において、「測定値が小さく、目標値× BA（%）の値、あるいは目標値× 5 %（許容誤差限界上限）の値が、日常報告している結果報告桁数の最小単位未満となる項目は結果報告桁数の最小幅の 2 倍を許容誤差限界とすることを推奨する。」となっていることから目標値±0.2mEq/L とした。

なお、尿素窒素の ReCCS の標準物質の認証値は内因性のアンモニアを含んでいないことからアンモニア消去（回避）法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

ドライケミストリー法はナトリウム（Na）、カリウム（K）、クロール（Cl）はドライケミストリー法以外の方法と同様の評価基準としたが、それ以外の評価項目はマトリックスの影響を受けやすいため、評価Ｂを1.5倍（目標値±7.5%）に広げた。また、集計に用いた精度管理用システム（JAMTQC）は 6 施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で 6 施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させせさせることが不可能であることから「対象外」の表記になる。ただし、参加施設数がほとんどの項目において、例年 6 施設未満のドライケミストリー法について、初めての試みとして評価を行うこととした。その理由としては、まず、全て項目において目標値が機種メーカーごとにメーカー報告値で設定されていること。つぎに、メーカー報告値を目標値にすることで、許容を満たさない施設の是正を促したいと考えたからである。ただ、今年度は試行的に行うものとする。ご不便をおかけすることをお詫びするとともに、目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

血球計数検査（CBC）については項目別統計において機種間差を含んだ上で各項目の CV は評価基準内に収まっており、全体的に良好な収束を示した。昨年度より評価基準を変更した血小板数においては、評価Ｂの施設数が前回の10施設から 7 施設へ減少した結果となった。機種別統計では概ね各機種の目標値に近似した報告値となり、良好な収束がみられた。ただ、今年度も白血球数において、入力桁数間違いと思われる 1 施設が評価Ｄであった。報告に際しては、十分に注意して頂きたい。

微生物検査（同定）では、試料Ａは「*Vibrio mimicus*」を正解、「*Vibrio* sp.」を許容正解とし、正解は64施設（97%）となった。試料Ｂは「*Listeria monocytogenes*」を正解、「*Listeria* sp.」を許容正解とし、正解は57施設（98%）となった。例年、同定された菌種と性状確認試験の結果において整合性の取れない例がみられる。得られた結果については、結果報告前に成書等により性状を確認し、成績書作成時にはダブルチェックする等、十分な確認をお願いする。

微生物検査（薬剤感受性試験）では、メタロ - β - ラクタマーゼの一種である SPM- 1 を産生するカルバペネム耐性の *Pseudomonas aeruginosa* NCTC 13921を用いて、IPM、AMK、LVFX の薬剤感受性試験の調査を行った。結果はいずれも良好な成績であった。しかし IPM において、MIC 値が＞2.00かつカテゴリー判定 R との回答があった。本来この測定レンジでは、I あるいは R を正確に判定することができない。該当施設においては、測定レンジの見直しをお願いしたい。また、カルバペネマーゼあるいはメタロ - β - ラクタマーゼ確認試験を実施した数施設において、SMA 阻害試験、EDTA 阻害試験、mCIM に対して「陰性」の回答があった。出題菌株ではこれらの試験は陽性となる。該当施設においては、確認試験方法についてご確認いただきたい。出題菌株は、IPM、AMK および LVFX すべてに耐性を示すため、多剤耐性緑膿菌（MDRP：multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*）と判定される。今回、フリーコメントに「MDRP」と回答した施設は18施設（36.7%）であった。MDRP は 5 類感染症（定点）に指定されており、さらに院内感染対策上重要な耐性菌であるため、報告できる体制が必要である。

一般検査（フォトサーベイ）は、多くの設問で正解率が高く、特に例年正解率の低い尿細管上皮細胞の正解率も高かった。各施設における日頃の尿沈渣成分鑑別の教育、知識の研鑽の表れである。一方で、尿中赤血球形態においては、引き続き低正解率の設問があった。尿中赤血球形態の鑑別は、尿路における出血部位の推定が可能で臨床的に有用である。今一度、尿沈渣検査法や技術教本、血尿診断ガイドライン等

を確認し、鑑別能力の向上、報告の推進をしていただきたい。

寄生虫検査について、検査件数は多くなく、外部委託する施設が多くなっているが、毎年少なくない数の寄生虫感染症は報告されている。検査法や保存法を含め、いざというときに最低限の検査が実施出来るよう、機材の準備、知識の維持をしておくことが重要である。

4．生涯教育　近藤　善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行ってもらった。依然、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、主に web 研修会が開催されたが、特に大きなトラブルはなかった。web 研修会の生涯教育登録は開催後に事前登録と web のログを確認する作業が発生するので、実施にあたった関係各位に感謝したい。尚、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、20研修会が対象となり、計941,000円を受け取ることができた。

広報部　副会長　田端　　篤

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。ホームページは即時に会員にお知らせできる事から、有益な情報をできるだけ早く掲載することに努めた。また、昨年に引き続き文書発送についてシステムを用いて、メールにて各施設に理事会終了後に発行する新臨技ニュース・各種案内や文書を発信し、即時性を重視し情報発信を行ってきた。会誌に関しても、研修会、学会の開催が難しい中、Web 研修会の内容や認定技師精度紹介、施設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1）新臨技会誌　神林　真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため Web を用いた研修会等が多く、参加報告執筆依頼が難しいために件数は減ってしまったが参加した会員の協力を得て、講義内容をお伝えできる頁とした。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供した。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

日々の出来事や趣味の話など投稿できるペンリレー、職場での活躍ぶりや日々の頑張りが伝わる奮闘記、そして新しく会員になられた方々の紹介を掲載することで会員同士の繋がりをつくる頁とした。

〔公益活動参加報告〕コロナ禍にてほとんどの公益活動は中止となったが、糖尿病を知る集いや全国検査と健康展など以前とは違う形式で参加スタッフ数を減らして開催している公益活動について掲載することができた。

〔施設紹介〕様々な施設の紹介をすることで、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕初めて学会発表をした会員に感想やプロセスを含めた報告書を執筆していただき、これから発表を考えている方の参考にしていただけるよう努めた。

年４回　季刊発行　（323号から326号まで）

〈令和４年度会誌掲載内容〉

323号　令和４年４月１日

〔講義〕

ホルター心電図検査　～その歴史から二次処理などの未来に向けて～　須藤　二郎

血液培養のＱ＆Ａ　坂本　晃一
〔篠川　至賞とは〕篠川　至賞について　畔上　公子
〔お知らせ〕第95回新潟県臨床検査学会案内（予告）
〔施設紹介〕医療法人崇徳会　長岡西病院　関　季代美
〔認定技師制度紹介〕認定心電検査技師について　桐生あずさ
〔ペンリレー〕　瀬沼　祥輝
〔検査技師として～私の奮闘記～〕　織原　大貴、大熊　京香、村田　直之、長谷川直緒
〔会報〕
令和４年度通常総会議案書
2021年度（令和３年度）現地開催＋Zoom による第６回理事会議事録
2021年度（令和３年度）Zoom による第５回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
〔行事予定〕
〔編集後記〕

324号　令和４年７月１日

〔講義〕
細胞形態の認識とロジカルな形態学　菅原　新吾
最近の長時間波形記録装置の記録と編集　吉田　　史
〔受賞者のことば〕
篠川至賞を受賞して　樋口　元弥
篠川至賞特別功労部門を受賞して　吉原　正広
生涯教育新人賞を受賞して　渡辺　翔太
〔研修会参加報告〕
令和３年度第１回佐渡支部研修会に参加して　真壁　　恵
上越支部春季研修会参加報告　柳原　優香
令和３年度第２回新潟支部研修会　藤井雄之介
令和３年度　新臨技臨床微生物部門研修会に参加して　石澤　美香
〔施設紹介〕県立新発田病院　清水　留美
〔ペンリレー〕　齋藤　愛望
〔検査技師として～私の奮闘記～〕
竹田　　洸、湯本　夏未、石田穂乃華、新發田美紀、久住　　領、斎藤　　優、大橋　歩実
〔訃報〕
〔会報〕
令和３年度　監査報告
令和４年度　一般社団法人新潟県臨床検査技師会　通常総会議事録
令和４年度通常総会からのアンケート
2021年度（令和３年度）Zoom による第７回理事会議事録
2022年度（令和４年度）Zoom による第１回理事会議事録
2022年度（令和４年度）Zoom による第２回理事会議事録
新臨技会日誌

〔行事予定〕
〔編集後記〕

325号　令和４年10月１日

〔講義〕
感染症治療に有効な抗菌薬の選択のために
ドライプレート‘栄研’（剤型名 DP１R）を用いた薬剤感受性試験について　藤崎　桃子
〔案内〕第95回新潟県臨床検査学会
〔研究〕第95回新潟県臨床検査学会抄録
〔施設紹介〕新潟中央病院　皆藤　早苗
〔認定技師制度紹介〕認定血液検査技師について　田中　利佳
〔ペンリレー〕　土門　美緒
〔検査技師として～私の奮闘記～〕
河内　佳奈、白椿まどか、金子　采佳、大澤　和也、佐藤　晴香、関根　望、米山　知里
坂西　永子、宮川　茉子
〔会報〕
2022年度（令和４年度）Zoom による６月常任理事会議事録
2022年度（令和４年度）Zoom による第３回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
〔行事予定〕
〔編集後記〕

326号　令和５年１月１日

〔あいさつ〕年頭のご挨拶　渡邊　博昭
〔講義〕
LAL 試薬を用いた（１→３）-β-D- グルカンの測定　赤松　佑理
小腸・大腸の基礎知識から炎症性腸疾患と新規バイオマーカーまで　須長　宏行
〔公益事業参加報告〕
全国「検査と健康展」に参加して　土田　昌美
「糖尿病を知る集い2022」に参加して　大橋　孝宏
〔研修会参加報告〕
第１回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会に参加して　坂西　清
上越支部秋季研修会に参加して　小林亜矢音
第１回新潟支部研修会参加報告　鷲澤　徳子
中越支部フォーラムに参加して　三井田芽衣
超音波実技セミナーに参加して　加藤　義揮
令和４年度第１回佐渡支部研修会に参加して　市橋あゆみ
第２回下越支部研修会に参加して　中山紅美子
令和４年度輸血細胞治療部門研修会　小池　椎
〔施設紹介〕医療法人メディカルビットバレー　エールホームクリニック　金子　玲子
〔認定技師制度紹介〕認定臨床微生物検査技師とは～自身の経験を交えて～　酒井　俊希

〔ペンリレー〕　高橋　恵美
〔検査技師として～私の奮闘記～〕
井上　夢乃、外山友莉乃、野田真紀子、宮平　来果、土門　美緒、齋藤　のあ
〔会報〕
2022年度（令和４年度）Zoom による第４回理事会議事録
2022年度（令和４年度）Zoom による10月常任理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌
〔行事予定〕
〔編集後記〕

２）新臨技ニュース　佐藤　卓

理事会議事要旨、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。またメール文書配信システムを活用し迅速に各施設に届くように努めてきた。発行目安は理事会終了後の月１回とした。

３）新臨技ホームページ　近藤　善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。依然、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であったが、会員へ有益な情報を迅速に提供できるよう心がけた。また７月にスマホやタブレット端末に対応したページレイアウトへリニューアルを行い、求人情報も誤りがないよう求人先 PDF を直接閲覧できるよう改良した。

【主要行動報告】
１．４月10日　第１回理事会
２．４月23日　日臨技理事会へ桑原副会長出席
３．５月13日　第１回表彰委員会
４．５月14日　第２回理事会
５．５月15日　篠川至賞選考委員会
６．５月25日　第１回学術部会議
７．５月29日　令和４年度通常総会
８．６月18日　新潟県理学療法士会創立50周年記念式典へ渡邊会長出席
９．６月19日　６月常任理事会
10．６月25日　日臨技総会（東京）へ桑原副会長出席
11．６月29日　第１回精度管理委員会開催
12．７月15日　第１回臨床検査精度管理協議会へ佐藤事務局次長、伊藤理事出席
13．７月16日　第３回理事会
14．７月19日　新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ小丸理事出席
15．７月21日　日臨技理事会へ桑原副会長出席
16．８月21日　施設運営管理者協議会
17．９月17日　第４回理事会
18．９月25日　第１回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
19．10月６日　第37回がん征圧新潟県大会田端副会長出席
20．10月19日　日本臨床検査技師連盟第２回執行委員会田端副会長出席

21. 10月22日　10月常任理事会
22. 11月５日　第２回県学会 WG 開催
23. 11月11日　令和４年度北日本支部内連絡会議へ桑原副会長出席
24. 11月12日・13日　日臨技北日本支部学会10回（函館市）へ桑原副会長出席
25. 11月20日　検査と健康展開催
26. 11月20日　第２回タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
27. 11月21日　第14回新潟県救急搬送・受入協議会へ田中理事出席
28. 11月23日　日臨技理事会へ桑原副会長出席
29. 11月26日　山形県臨床検査技師会創立70周年記念式典・祝賀会へ渡邊会長、桑原副会長出席
30. 12月４日　第５回理事会
31. 12月18日　第95回新潟県臨床検査学会
32. １月21日　日臨技理事会へ桑原副会長出席
33. １月27日　令和４年度第２回臨床医検査精度管理協議会開催
34. １月28日　第６回理事会
35. ２月４日　日臨技北日本支部幹事会に桑原副会長出席
36. ２月26日　新潟支部総会へ田端副会長出席
37. ２月26日　第７回理事会
38. ３月４日　中越支部総会へ桑原副会長出席
39. ３月４日　上越支部総会へ渡邊会長出席
40. ３月18日　佐渡支部総会へ渡邊会長出席
41. ３月19日　第８回理事会

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。